



|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 都市近郊林の立地を活用した一般向け教育サービスの試み                                                        |
| Author(s)        | 荒木, 小梅                                                                            |
| Citation         | 北方森林保全技術, 41, 12-15                                                               |
| Issue Date       | 2023                                                                              |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/90722">https://hdl.handle.net/2115/90722</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 2022_41 (4).pdf                                                                   |



## I - 4 都市近郊林の立地を活用した一般向け教育サービスの試み

荒木 小梅

苫小牧研究林

### はじめに

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション（以下「研究林」）では研究や大学生・大学院生への教育を主要な業務として取り組んできた。一方で、近年では一般への情報公開や地域貢献も大学の役割として期待されている。北海道大学は2022年2月に「北海道大学の社会連携に関する基本方針」を制定し、その中で「生涯学習機能の強化」や「資産を活用した地域活性化等への寄与」といった項目を掲げた。国際情勢に目を向けると、2022年12月に開催されたCOP15で締結された昆明・モントリオール生物多様性枠組では、2050ビジョンとして「自然と共生する世界」が掲げられている。こういった情勢を踏まえると今後市民向けの環境教育へのニーズは高くなっていくと予想され、研究林ならではの環境を生かして生涯学習や地域活性化の強化に取り組むことは大学からも期待されているといえる。

苫小牧研究林は他研究林と比較して札幌キャンパスからのアクセスが良好な立地であることから、大学生・大学院生向けの実習を数多く実施してきた。また、樹木園をはじめとした一般開放区域を広く設けており、日ごろから都市近郊林として市民に親しまれている。一方で、苫小牧研究林は他研究林と比較して人工林の規模が小さく、それゆえに素材生産による収入が限られるという事情がある。

上記の事情を鑑みて、都市近郊林としての立地を生かし一般向けにツアー等を開催して収入を得るという方針は、苫小牧研究林の現状に合った取り組みの一つと言えるだろう。本報告では2022年度に当林で実施したプログラムの事例を取り上げ、見えてきた課題と今後の展望について述べていく。

### 2022年度に取り組んだ一般向け教育サービスの事例紹介

以下、本文中で一般向け教育サービスと表記しているものは、大学生以外に向けた有料のツアー・研修・教育プログラムのことを指す。苫小牧研究林では以前から森林資料館・記念館の公開日や、中学生や高校生を対象とした無料のイベントを開催しているが、本報告では有料のイベントに関して述べていく。

#### 事例1 こども森林学校 第1回 樹木図鑑を作ろう

開催日：2022年8月10日（水）

参加費：4000円

対象：小学校4年生～6年生

本イベントでは「樹木図鑑を作ろう」というテーマの下、図鑑の引き方、種同定や分類群の概念の説明、葉を通じて樹木を見分ける方法などを教えた。3時間のプログラムの前半では樹木園を巡りながら葉の採集や写真の撮影を行い、後半はそれをもとにスケッチや記述を行うことでオリジナルの樹木図鑑を作成した。自然科学に興味がある子供を対象としており、当日の参加者は2名にとどまった。

参加者数が振るわなかった要因として、宣伝の不足が挙げられる。今回、宣伝チラシを配布した範囲は苫小牧市の一部の小学校に限られた。本イベントは対象学年も限られており、その

ように比較的コアな客層を対象とした企画ではその分だけ宣伝する範囲を広く取る必要があったと考えられる。一方で、参加者は少数だったものの、こちらの想定通り自然科学に興味のある参加者が集まっており、参加者の反応を見ても満足度は高いように感じた。そのため、宣伝内容やコンテンツの構成自体はある程度の射ていたと考えられる。



図 1. 小学校に配布した宣伝チラシ



図 2. こども森林学校当日に配布した資料

## 事例 2 mont-bell イベントツアー 生物観察と調査体験

開催日：2022 年 10 月 23 日（日），2022 年 10 月 27 日（木）

午前コース（9：00-14：00），午後コース（12:00-17:00）

参加費：8000 円

定員：各コース 20 名

対象：小学校 1 年生以上参加可能

本イベントは 2022 年 10 月に株式会社モンベルと共同で実施した調査体験イベントで、モンベルアウトドアチャレンジ（以下 M.O.C）の一環として開催された。

M.O.C とは株式会社モンベルの野外活動部門である。全国各地のモンベルストアを拠点に各地域の特色を活かしたイベントを企画・運営しており、幅広いジャンルのアウトドアイベントをモンベルクラブ会員向けに提供している。本イベントでは参加者の申し込みや保険加入といった諸手続きを M.O.C のプラットフォームで行い、当日のプログラム進行は苫小牧研究林のスタッフが執り行った（図 3）。

本イベントのプログラムは苫小牧研究林で行っている魚類調査・林冠クレーン搭乗モニタリング調査の解説など、日ごろから研究補助や実習で集中的に取り組んでいる内容を構成の中心とした。実習を行う際には、本イベントを意識して予行演習として取り組むことで、実習・イベント両方の内容のブラッシュアップに努めた。

当日の参加者の反応はどのプログラムも良好だった。特に林冠クレーンの搭乗では天候にも恵まれ、普段アクセスすることのない林冠からの景色に驚きの声が上がっていた。また、参加者の中には普段から樹木園を利用している近隣住民の方も多く、苫小牧研究林が取り組んでいる調査研究の内容を初めて知ったとの声も伺った。

このような共同イベントは収益の割合は減るというデメリットはあるものの、前述したようにモンベルのプラットフォームを活用して諸手続きを行うことができるのは大きなメリットと

いえる。宣伝の面でもモンベルの知名度は強力なバックアップとなり、特に SNS においては研究林単独よりも情報の拡散力は強力であった。さらに今回は初の共同イベントということで注目を集め、当日は北海道新聞・苫小牧民報の取材を受けたことで、多くの年齢層に情報を発信できたと考えられる。



● 生物観察と調査体験 北海道大学・苫小牧研究林 M.O.C. KIDS

**大学の調査研究を体験してみよう！**  
 苫小牧研究林で実施している魚類調査や森林調査を体験し、森や川の生態系を学ぶ自然体験・観察イベントです。北海道大学の研究者による調査のレクチャー、座学も実施します。普段めったに経験できない最先端の自然科学研究を体験できるまたとない機会です！  
 ※当イベントの売上の一部は、研究林の維持運営のために寄附いたします。

参加料金 ¥8,000 (税込)  
 子ども料金 ¥8,000 (税込)  
 ※詳しい料金についてはこちら

主催 M.O.C.本部  
 開催地域 北海道 (北海道)  
 種別 現地集合イベント

日程 1day  
 2022年10月23日(日)、10月27日(木)  
 ※詳しい日程についてはこちら

初級 ▲ 体力1  
 定員 20名 (最少催行9名)  
 引率者比率 (ガイドレシオ) 1:10  
 カテゴリ 自然観察  
 イベントNo. G01M01  
 小学校1年生以上参加可能

ツイート

お申し込み 印刷画面へ イベント一覧

図 3. M.O.C のホームページに掲載された情報

## まとめ

2022 年度に取り組んだ一般向け教育サービスでは、知識や準備の不足を感じる点があったものの、参加者からの反応はおおむね好感触だった。特に内容に関しては、苫小牧研究林ならではのプログラムを提供できたといえる。これは、従来の学生実習で培ったノウハウを十分に生かすことができた為だと考える。一方で課題点として、広報・情報発信の弱さが挙げられる。ホームページや SNS での発信はもちろんのこと、児童・学生向けのイベントを開催する場合は教育委員会や学校の協力を得て情報を届ける必要があるだろう。

## 今後の取り組みについて

2022 年度に実施したイベントの結果を踏まえ、プログラム内容のブラッシュアップや外部との連携の試みを進めることを目指し、2023 年度にエコツアーのプログラムを検討するワーキンググループを作成した。

また、今回報告した一般向け教育サービス以外にも、森林資料館・記念館の土曜日公開など、無料サービスの充実化も進めている。このような取り組みで苫小牧研究林への訪問者を増やすことは、有料イベントを開催する際の宣伝に効果的だろう。一方で、このようなイベントを多く開催すると調査・研究・実習といった通常業務を圧迫することが予想されるため、業務バランスを考慮しながら取り組む必要がある。

今回取り上げた一般向け教育サービス以外にも、苫小牧研究林では増収の手段として木工品や手ぬぐいの販売に取り組んでいる。このように増収の手段を複数持つことは、感染症の流行等の不測の事態でイベントが開催できない時勢になっても収入が断たれる事態は避けられる効果が期待できる。今後もこういった多角的に収入を得ていく取り組みを続け、ノウハウを蓄積していきたい。

## 参考文献

1. mont・bell、M.O.C.について

<https://event.montbell.jp/aboutmoc/>

2. 北大苫小牧研究林 自然身近に モンベルと体験イベント 27日も開催、北海道新聞、2022-10-26、北海道新聞デジタル（参照 2023-07-05）

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/750663>

3. 杉山 弘・石井 正・小宮 圭示・鷹西 俊和・奥山 悟・及川 幸雄・三好 等・汲川 正次・佐藤 智明・松岡 雄一・中路 達郎・日浦 勉（2012）苫小牧研究林の一般公開に関する現状と課題、北方森林保全技術、第 30 号、19-24

（[https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/73052/1/2011-30\\_1-4.pdf](https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/73052/1/2011-30_1-4.pdf)）